

独立行政法人を通過点にさらに病院機能を発揮していきます

東京都立多摩北部医療センター院長 高西 喜重郎

令和4年7月1日に「たまほく」は独立行政法人、東京都立病院機構「東京都立多摩北部医療センター」になりました。現場の声がより反映され、自由度が高く思い切った意思決定と柔軟・機動的な運営が可能な独法化のメリットを生かし、これからの医療に迅速に対応して参ります。また、飛躍的に成長する未来の医療体制を思考しつつ、求められる医療を提供することで、そこに住む人々が安心して暮らせるまちづくりの一翼を担えるよう、より一層努めてまいります。

独法化となるこの機にあわせ、より患者様、地域の皆様に信頼される病院を目指していくため、この度、病院運営理念を見直しました。患者満足度、職員満足度、社会満足度、病院満足度からなる4つの視点で構成しています。

今後とも、東京都立多摩北部医療センターへのご支援の程よろしくお願ひいたします。

【新しい病院運営理念】

○患者満足度（Your happiness is our happiness）

1. EBMに基づいた科学的、倫理的、患者さんの価値観に寄り添った、安全で質の高いあたたかい医療を実践しよう

患者さんが求める医療の質とは、医療技術や安全管理水準が高いことに加え、倫理的であり患者さん自身の価値観に添うものです。ここに当院の強みであるチーム医療とホスピタリティ精神で臨めば、素晴らしい医療が展開できます。

○職員満足度（職員のやりがい・生きがい）

2. 今の医療を超えてゆく心意気で医療の質向上を図り、自身の成長と社会貢献を果たすことなどでやりがいを感じられる病院を全員で作り上げよう

常に高い目標を掲げ自身の成長を図り、医療を利他的に実践することで、自己実現を果たしてゆきましよう。たまほくの職員には無限の可能性があります。新たな価値を創造することにも挑戦し、東京の片隅で何か面白いことをやっている病院がある・・・そんな病院を目指しましょう。

○社会満足度（ここにたまほくがあって良かった）

3. 救急医療、専門医療、地域包括ケアシステムへの貢献など、地域が抱える医療課題に取り組み「安心して日々を暮らせる地域づくり」の一翼を担う病院になろう

組織の基本的な存在意義は社会の課題解決です。たまほくは 300 床規模のため、単独で出来ることには限界があります。だからこそ、地域の医療機関と連携しともに歩むことが必要です。たまほくと地域との協働には先進的なものもあります。

つらい時にすぐに手を差し伸べるという医療の根本である救急医療、都心まで出向かなくても近くで専門医療を受けられる、先進的な地域包括ケアシステム構築を導くなど、安心して暮らせる地域づくりの一翼を担って行きましょう。

○病院満足度（経営視点）

4. 持続可能な病院運営を実現しよう

良い医療の実践には、それを実践する職員や医療機器、薬品などを確保する必要があり、良好な経営状態であることが欠かせません。一人でも多くの患者さんに利用していただくとともに、生産性を高めてゆきましょう。



新法人でもたまほくカラーを出して

「チーム医療」で地域を支えます！！